

1. 評価結果概要表

作成日 2007年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1273400307
法人名	有限会社 憩
事業所名	グループホーム 憩
所在地	千葉県袖ヶ浦市横田1708番地1 (電話) 0438-75-7010

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	2007年3月29日	評価確定日	5月21日

【情報提供票より】(19年3月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	123,800 ~ 125,870円	その他の経費(月額)	実 費
敷 金	無し		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	無し
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	540 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,340円		

(4) 利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 社団福德会福王台外科内科 (医) 社団誠永会井手病院 高浦歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

袖ヶ浦市出身の法人代表が、家庭的で温かみのあるホームをと、同地にたちあげたのが「グループホーム憩」である。水田や畑に囲まれ、自然豊かな気持ちの良い環境に位置している。最寄り駅はJR久留里線横田駅か、内房線袖ヶ浦駅。1ユニットのホームは、南国風のしゃれた外観と、木目を生かした、吹き抜けの明るく風通しのよい作りとなっている。いきいきとした表情の入居者が、料理、洗濯、庭仕事など、それぞれの得意なことに精を出し、職員ともども楽しげな雰囲気である。今後もより一層、地域に根ざすため、前向きな姿勢で業務に取り組む、元気溢れるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念がわかり辛いという指摘を受け、玄関に大きく掲示した。個別ファイルの充実については、様式を新たに作り、入居者個々の把握に励んでいる。小遣いについては家族の希望に応じて出納帳を作成し始めた。リビングが手狭で入居者個々に寛げる空間が足りない点については、改築が必要なため、長期的な視点で検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人代表やホーム管理者をはじめ、職員一同で話し合い、前回の評価を踏まえて、ホームのありのままの姿を自己評価票に記載するよう努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	既に3回開催しており、2007年4月に4回目を予定している。主な参加者は、袖ヶ浦市の保健福祉部高齢者支援課長、民生委員、横田地区の区長、入居者家族代表、入居者代表およびホームの法人代表や管理者など。これまで、事業の説明や利用料金の説明、行事案内などをテーマに話をしてきた。ホーム内がやや手狭という指摘については、改築が必要になるため、長期的な視点で見守ってくれるよう呼びかけている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に苦情窓口を明記するほか、面会時、電話、郵便等でこまめに家族と意見交換している。意見要望はそれほど多くないが、あった時はすぐに対応できるようにしている。毎月、写真満載のホーム便りとともに、入居者の1ヶ月分のバイタルや身体状況、生活の様子を記載した「健康集計表」を家族に送付し、入居者の状態を細かく伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会に参加し、さまざまなイベントを楽しんでいる。市主催のゲートボール大会では3位入賞を果たした。周囲は農家が多く、散歩の際に挨拶をしたり野菜を貰うなど、地域にとけ込んだ生活をしている。2007年4月に地域包括支援センターがオープンするので、そこを通じてより一層地域と連携を結ぶことを考えている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念と方針をもとに、ホームのモットーとなる「ゆったり、一緒に、楽しく」という言葉を玄関に掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者および職員は、理念を共有し、それぞれが大切にしたいことを持ってケアに取り組んでいるが、玄関に掲示されたもの以外にも、モットーや目標が複数あってわかり辛い。また説明文書に理念やモットーの記載が見受けられない。		ホームが大事にしていることが分かりやすく伝わるモットーを一つに定め、職員共通の認識を持つようにすることが期待される。
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に参加して地域の人々と交流を図っているほか、市主催のゲートボール大会に参加したりと、積極的に地元にとけ込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を見ながら、管理者、職員一同で自己評価作成に取り組んだ。また前回指摘された点については、改善のための取り組みをすでに行っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はすでに3回開催。近々4回目を予定している。市の担当者、地区の区長、民生委員、家族代表、入居者などが参加し、ホームの理解を地域に深めてもらうとともに、意見要望を伺っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の社会福祉施設連絡協議会の会員となり、協議や懇談会に参加している。2007年4月に地域包括支援センターがオープンするので、そこの繋がりをも深めていこうと検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真満載のホーム便りや、入居者の1ヶ月のバイタルを記載した健康集計表などを毎月家族に送付している。金銭管理は、家族から依頼があった方について、金銭出納帳を作成している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会などに参加を呼びかけ、職員・家族との親睦を深めながら、意見要望を出してもらうようにしている。意見が出た場合はすぐに対応する。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は近隣に在住している人が多いため、退職後もちよくちよくホームに遊びに来ている。また、新人職員が入った場合は、「いろいろ教えてあげて下さい」と入居者に紹介し、馴染んでいってもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される各種の研修に、出勤扱いで受講してもらっている。研修終了後は報告会も行う。介護計画作成時には職員皆で討議し、それが勉強会にもなっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会、全国認知症高齢者グループホーム協会、袖ヶ浦市社会福祉協議会に参加し、他事業所との連携に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>なかなかホームに馴染めないようなときは、家族の面会や宿泊などの協力を得て、少しずつ、家からホームへの暮らしに慣れていってもらうように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、料理上手の入居者に料理を教わったり、人生の先達の知恵をかりるなどして、共に支えあって生活している。入居者はみな喜怒哀楽を溜め込まずに外に出て、生き生きと生活している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりにあった居心地良い場所づくりを日々考えながら、入居者の希望に添った見守りを行っている。個性の違いを大事にしながらも、入居者同士の口論など、小さなトラブルにどう対応するかが、現在の課題である。</p>		<p>職員は入居者一人ひとりの思いを受け止め、どのようにしたら共同生活が居心地よくなるか、常に探るように努力している。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時には、緻密なケアチェック表を基に、非常勤職員も含め、全職員が参加している。家族の意見も入所時に限らず、面会時等で随時意見を聴いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎朝のカンファレンスを大事にし、30分かけて、入居者についての情報を共有し、介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在はしていない		現在 市に通所介護事業の申請をしている。それに伴う増築も検討している。今後の事業拡大計画を通じ、地域に認知症の理解を広めるための拠点となることが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、提携医院の看護師がホームへ来所している。提携医院の医師は月2回ホームに訪問診療に訪れている。また入居者は必要に応じ、かかりつけの医師にも受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	提携医院との間で24時間医療体制ができています。終末医療についても取り組んでおり、現在2名の家族と契約書を結んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真の掲示について、家族の了解を事前にとるなど、プライバシーには配慮している。入居者への言葉かけや、対応は適切である。しかしプライバシーの確保について、共通の指針となる文書などはない。		ホーム全体で、プライバシーや個人情報の保護方針等を取り決め、文書や掲示でわかりやすく提示することが重要と思われる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間はほぼ決まっているが、それ以外については、入居者の好みに応じてすごしており、一律のスケジュールはない。食事作り、野菜作り、洗濯物干し等、得意分野を活かして過ごしている。季節に応じた塗り絵、ちぎり絵なども希望者と行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の得意な入居者がいて、他の入居者や職員と一緒に献立作りや買い物、調理を行っている。ホームの畑もあり、いつも新鮮な野菜を食べることができる。調査時の昼食には、入居者が摘んだツクシの料理が並んでいた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週に3回入浴している。希望に応じ毎日入浴する入居者や、夜間入浴する入居者もいる。一方入浴で疲労する入居者には、適宜対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室にいることを好む人、一日中活動的な人など、様々な入居者がいる。そのなかで、食事作りや後片付け、洗濯物たたみなど、それぞれが役割をはたしている。大正琴の得意な人が、他の入居者に教えたりしていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて戸外に出ている。外出を好まない方には、天気の良い日に昼食やおやつを庭で食べるなどの工夫をしている。庭には、木製の長方形の大きなテーブルとベンチが置かれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及び玄関の鍵はかけていない。敷地内は自由に動くことができる。外の門は常時かけてあるが、希望に応じ職員と一緒に出かけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時にスムーズに避難できるよう、ホームから庭にでて、そこから駐車場の車に乗り込むという練習を、日常生活の中で行っている。しかしながら消防署の指導を受けての避難訓練はまだ行っていない。		消防署の協力により、今後、避難訓練を実施する予定である。早急な実施が重要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節に応じた食材や彩り豊かな盛りつけ等により、入居者の食欲増進を図っている。食べ残しの量などにより入居者の食事量や水分摂取量を判断している。バイタルチェック表を作成し、健康チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井に窓があり、明るい光が差し込んでいる。居室・共用空間ともに清潔で居心地がよい。リビングはやや手狭で食事用のテーブルだけでいっぱいになってしまっている。		ソファや畳の空間など、居室以外に入居者がくつろげる場所があれば、さらに居心地がよくなると思われる。将来的に増築を検討しているそうなので、今後が期待される。階段については、今後入居者の身体機能が低下してきたときの工夫が必要と思われる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の希望通り、自由なレイアウトになっている。物の多い人、シンプルな人、その人の個性に応じた居心地の良い空間になっている。		